

地域に根ざした防災研究

いしづえづく
—未来の加屋町の礎 創りのために—



令和4年8月17日 三嶋大祭り 当番町

令和5年2月5日
三島市 加屋町 自治会

目 次

はじめに（御挨拶・祝辞）	P 1
I 加屋町 防災研究発表大会	P 3
II 研究の経過	P 4
III 研究の基本方針	P 6
IV 研究の実践	P 10
V 加屋町の防災上の危険箇所等	P 16
VI 加屋町周辺の防災用の設備等	P 17
VII 防災に関する加屋町住民の意識・実態調査（アンケート）	P 18
VIII 加屋町の地図	P 21
あとがき	P 22

はじめに

御挨拶 加屋町自治会長（防災研究委員長） 秋津 温^{おん}

令和3年4月に秋元定昭前自治会長（現民生委員、防災研究スタッフ）から自治会長を引き継ぐことになった。三島の伝統的な夏祭り、「三嶋大祭り」の当番町がすぐ迫っていることは承知していたが、6年務めた事務局長の経験から、もう少し自治会として「防災について踏み込んだ対応」をしたいと常々考えていました。そのような思いの背景にあったのは、かつて自分が県立高校の教員として、特に裾野高校に勤務した時に経験した高校防災の在り方についての研究が影響していたのは否めません。

そこで自治会の新スタッフと協議して加屋町として防災研究スタッフを募集して防災への取り組みを深めようと思ったのである。町内から総勢7名の方が賛同して、その研究に携わってくれた。感謝に耐えません。

しかしこのような研究に専門知識を有しない素人だけで推進することは困難であり、指導助言を戴ける人材として、かつて高校防災活動で旧知の仲であった常葉大学の小村隆史先生、また、裾野高校で同僚としてともに活動した現田方農業高校教諭の坂東廣一さん及び三島市危機管理課主事の宮澤美瑠さんに協力を依頼した所、快諾を得た。そこで研究の準備ができた令和3年6月から、偶数月の第1土曜日の午後2時間程度の研究を2年間積み重ねて、決して内容的に十分とは言えないが、ともかく「地域から発信した防災研究」を試みたのである。さらに、このことが地元三島市全体の防災意識の向上や防災力そのもののアップに寄与して、さらなる地域の向上に繋がって行ったとしたならば幸いである。

祝辞 三島市市長 豊岡 武士^{たけし} 様

加屋町自治会の皆様が二年間の地域防災に関する研究を積み重ねて、本日ここに研究発表を開催されることに心より敬意とお祝いを申し上げます。

三島市としても危機管理課を中心に精力的に地域防災力のアップに取り組んでいるところですが、今回の加屋町の取組みは、自治会から発信し、その研究は地域に根ざした内容と聞き及んでおります。この研究の成果がご町内の安全・安心はもとより、三島市全体に波及することを強く願っております。

祝辞 常葉大学 社会環境学部 准教授 小村 隆史 様

本日ここに三島市加屋町の自治会活動として地域防災の研究の実践のための研究発表会を開催されたお慶びを申し上げます。

この研究のリーダーの秋津温さんとは、彼が裾野高校や三島南高校の管理職として勤務されている時に、高校の防災教育活動を一緒に推進したお付き合いに始まり、今回、退職後に自治会の活動として防災力を地域から創っていく活動を実践する協力依頼を受け、快諾させていただきました。この活動の成果が今後も大きく広がっていくことを切望しております。

I 加屋町 防災研究 研究発表大会

- 1 日時 令和5年2月5日（日）14時～16時
- 2 会場 三島市西地区コミュニティ防災センター 防災会議室（3階）
- 3 期間 令和3年度～令和4年度（2年間）
- 4 活動場所 加屋町防災会議室・町内全域（フィールドワーク）
- 5 研究スタッフ

研究委員長……秋津 温 研究副委員長……諸伏 雄司

		役 職	氏 名	備 考
町 外	1	顧 問	小村 隆史 様	常葉大学 社会環境学部 准教授
	2	助言者	坂東 廣一 様	静岡県立田方農業高等学校 教諭
	3	助言者	宮澤 美瑠 様	三島市役所 危機管理課 主事
町 内	4	スタッフ	秋津 温	加屋町自治会 会 長
	5	〃	諸伏 雄司	〃 副会長
	6	〃	神尾 通弘	〃 〃
	7	〃	植松 利之	〃 会計監査
	8	〃	三浦 博志	〃 令和4年度組長
	9	〃	秋元 定昭	〃 民生委員（前自治会長）
	10	〃	佐野 淳祥	〃 市議会議員

Ⅱ 研究の経過

下記のような内容で研究実行委員会等を開催し、研究活動を推進した。

《令和3年度…1年目》

第1回 令和3年6月5日（土）

- ① 坂東^{ひろかず}廣一研究助言者の被災地訪問と研究実践の発表と質疑
- ② 本研究の狙い、スタッフの募集や研究の進め方について

第2回 令和3年8月7日（土）

宮澤^{みる}美瑠研究助言者による「三島市の地震等の被害想定について」の発表と質疑

第3回 令和3年10月2日（土）

研究顧問の小村^{たかし}隆史先生を囲んでの加屋町全域のフィールドワークと防災に関する講話と質疑

第4回 令和3年12月4日（土）

- ① 前回第3回の町内フィールドワークの感想と意見交換
- ② 「黄色のハンカチ作戦」（防災訓練）の結果報告

※ 令和4年2月1日（月）…加屋町自治会全家庭を対象とした
防災に関する意識・調査（アンケート）の実施

第5回 令和4年2月5日（土）

静岡県地震防災センターにおける研修（2時間半）…小^{おじろ}城^{ゆたか}裕氏
防災シアター＋地震＋風水害＋火山＋防災講話

※ 令和4年3月13日（日）…三島市主催の防災講演会「気象災害と
巨大地震への備え」に参加

↓

令和3年度は、防災研究を進める上での「基礎的な知識等」を
学ぶための研修内容及び期間とした。

《令和4年度…2年目》

第6回 令和4年4月2日（土）

上記※印の加屋町住民のアンケートに関する分析と年間計画について

第7回 令和4年6月4日（土）

研究分析資料の作成Ⅰ

第8回 令和4年8月6日（土）

研究分析作業の内容Ⅱ…市内中央町の原晴之自治会長様と

同町の野口哲広防災委員長様が特別参加

第9回 令和4年10月1日（土）

研究分析作業の内容Ⅲ

第10回 令和4年12月3日（土）

研究分析作業の内容Ⅳ及び研究発表大会の運営について

第11回 令和5年2月5日（日）

研究発表大会

※ 今後の本研究の活動について

- ① 令和5年度に5月以降に数回に分けて加屋町の住民〔全戸対象〕を対象に研究発表会を実施する。その際、この研究冊子を配布し、各家庭の代表に詳細な説明を行い、質疑応答を含めて「防災に関する意識の高揚」を図る。
- ② 同じく令和5年度の三島市の自治会長研修会にて、この研究冊子を全町に配布し、三島市全体の意識の高揚に務める予定。
- ③ 他の自治会から要請があれば、各地域に赴いてこの研究に関する説明を行う。その際、参加者には研究冊子を配布する。

〔講演会開催について実費（研究冊子代）を各自治体をお願いする。〕

Ⅲ 研究の基本方針

1 研究の基本方針

防災研究を進める上で取り組む基本方針を最初に提示したい。

それは、何よりもまず三島市加屋町という「地域の特性」をしっかりと把握した上で防災研究を進めることである。その「地域の特性」とは、具体的に言うと、例えば過疎地なのか住宅密集地なのかとか、居住者は若い人が多いのか、高齢者が多いのかとか、また、どんな地形条件（山間部、斜面、平坦、河川、海岸）であるとか、どんな地盤（固い、軟弱）であるとかを把握することであり、また地域を取り巻く条件（山の噴火、原子力発電所等）も絡んでくるケースも想定しなければならない。

つまりそれらの特性を客観的に把握、分析することによって、自分たちが生活する地域の比較的安全な要素や、逆に弱点を浮き彫りにすることによって、我々加屋町の状況を認識し、そこに重点を置いた研究を試みた。当然のことであるが、同じ三島市でもそれらの条件が大きく異なるので、画一的な防災対策で対応することはできないことは言うまでもない。

またもう1つの基本方針は、想定される東海、東南海、南海トラフ地震（以下「大地震」と省略名称で）に対して災害ゼロは考えられないので、大災害に対していかに創意工夫をして「減災」（被害を最小限に留められるような研究活動を行うこと。）に心掛けるかということである。

2 加屋町の特徴の分析

加屋町の防災上の特性について公表されている資料（国、県、市が公表した資料等）や居住者の立場から考えて次のように整理してみた。

（1）比較的安全な要素（状況）

- ① 地盤が溶岩層のため、他地区より強固で、家屋が倒壊しにくい。
〔しかし加屋町の一部であるが、地盤が緩く、液状化が発生する可能性がある地域が存在する。〕
- ② 危険物を扱っている施設（ガソリンスタンド等）は存在せず、それらからの被害は発生し難い。
- ③ 昔からの定住者が多く、三嶋大祭り等の行事もあることから地域の連帯感があり連携が図りやすい点がある。

（2）危険性をはらんだ弱点等（状況）

- ① 道路幅が狭い地域も多く、住宅が密集している。
- ② 新しい住宅も増えてはいるが、昭和56年以前の旧耐震基準によって建築された耐震性が脆弱な古い木造建築も多く、また、ブロック塀等も耐震性に乏しいため大地震では（地盤そのものは固いが）倒壊する可能性が高い。
- ③ 加屋町と隣接している清水町の千貫樋^{せんがんどい}一帯が低地となっており、加屋町が高台の地形で、特に冬場に強い西風が煽^{あお}るように吹き上げて火災が拡大しやすい。
※ 火の神様である「秋葉神社」が加屋町に鎮座していることとその立地は無関係ではなさそうであり、三島の歴史的な事実を踏まえて備える必要がある。
- ④ 高齢者世帯が多く、災害時の避難誘導や救出活動が困難なことが予想される。
- ⑤ 大災害時の避難先となっている西小学校の加屋町のスペースが狭く、住民の受け入れに心配な点がある。

3 上記の（１）及び（２）の内容を踏まえての想定される最悪の大災害の内容

上記の（１）及び（２）の内容を踏まえて想定される条件、その**最悪のシナリオ**を考えた上でそれにどのように対応していくかをとりとめる必要性がある。

- ① 季節は強い西風が吹きまくる冬場の（夕食の準備をしている）平日の夕暮れ時に、想定以上の震度6強クラスの大地震が襲ったという設定。
- ② その大地震により古い家屋の大半が倒壊し、多くの人が下敷きとなる。夕食の支度で被災時に火を使用していた家も多く、火災が各所で発生し、強風でさらに火災が拡大し、もはや防ぎようのない惨状となる。（市内各所で同じような状況が発生し、消防の出動は見込めない。）そのまま夜間となり、救助もままならないまま翌朝を迎える。鎮火はしたものの倒壊家屋の漏電で何軒も火災が再び発生し、三島市西部地区は壊滅的な状態となり、それが本町地区から三嶋大社方面に広がっていく。
- ③ それから一ヶ月が経過した頃、度重なる余震に加えて大規模な「富士山噴火」が**ぼっぼつ**勃発し、火山灰や噴石が加屋町にも堆積し、地震の復興作業に大きなダメージを与える。



上記の最悪の事態が発生しても、それをどう減災し、どのような方策を事前及び事後に取り組み、どう対処していくかを提言することができるのかを本研究の研究実践の主たる内容とする。

4 起こりうる地震以外の他の災害との関係について

昨今の日本に於ける災害は、色々考えられることであるが、その中でも恐ろしいのは、台風を始めとする線状降水帯等の大雨の発生や落雷や竜巻等の異常現象が挙げられるだろう。落雷や竜巻等は回避する方法はなかなかない訳だが、**加屋町周辺は比較的高い所にあり、中小河川もないので大雨による被害はあまり考えられない。**側溝等の**あふ**溢れはない訳ではないが、定期的な側溝清掃を自治体事業として実施しているので現時点でその心配もあまりないと思われる。

また、大地震の発生で最も恐ろしいのは津波の襲来であり、この被害により未曾有^{みぞう}の大災害となることが強く考えられる。ところが三島には海岸はなく、また三島市の中でも加屋町は境川以外の河川も少ないため、（仕事や所用で津波浸水地域にいない限り）あまり大きな問題とはならないだろう。

ということで、加屋町については「**大震災時の発生**」に重点を据えた考えられる被災に対する**防災対策**に絞ってよいのではと考え、従ってこれに研究のポイントを合わせていくこととした。

IV 研究の実践

1 大地震の襲来

さて、Ⅲの「研究の基本方針」で示したように大地震が発生した場合、過去の大地震と比しても被害範囲が極めて広く、静岡県から紀伊半島、関西、四国、九州東岸地域一帯に未曾有^{みぞう}の被害が発生する可能性が高い。とすると、我々の認識の中で、大災害が発生して生活が困難になった場合は、ただちに避難所に赴いて救援してもらうという期待感は果たして成立するだろうか？我々はその回答は難しいと考える。それはなぜか、阪神・淡路や東日本大震災のような巨大地震が襲来した時に国や地域の迅速な救援がなされたにもかかわらず、なぜ東海、東南海、南海大地震ではそのような行動がとれないかという被害があまりに広域に及ぶ可能性があるからである。そのような規模の大地震を我々はまだ我々は経験していない。従って避難所が仮に開設されても、生活物資は届かないし、食糧や水の支給もないかも知れない。国や自治体や自衛隊等の人的支援もすぐには届かない可能性が高いことを覚悟すべきであろう。

つまり我々が想定している災害に直面した時、我々は自力で生きていかななくてはならないだろう。だから常日頃から、そのような有事が発生した場合の可能な限りの準備をしておかなければならない。

2 避難地の実態

加屋町の住民の広域避難所は西小学校である。しかし避難所を利用できるのは、住宅が倒壊したり、倒壊には及ばないが極めて危険な状況にある家庭と生活そのものが困難な老人に限られる。つまり住宅に住むことが可能な方の利用はできない。しかし加屋町の避難所として利用できるスペースは定められていて小学校の校舎の1階の東端にある教室1つとその隣の多目的室の僅か2教室で、収容人員は30～40名程度が限界だろう。また、そのような狭い避難所生活でプライバシーを保持することは極めて困難である。避難所生活は、非常に大変であることを認識しなければならない。

また、加屋町には200世帯の人間が居住しているから僅かな世帯の方しか避難所を利用できない可能性が高い。もちろん体調が芳しくない高齢者等が優先されるので、一般の住民は別の方法を考えなくてはならない。その別の対処法として考えられることは、次のようなことだろう。

参考までに避難所の閉鎖は阪神・淡路大震災で最長7ヶ月、東日本大震災で最長9ヶ月であった。加屋町の場合、避難所は西小学校なので、学校の再開を考えた時に長期間の開設は見込めないと思われる。

① 《被害が及んでいない他の地域への脱出》

その場合、考えられる地域は静岡県より北側にある山梨、長野方面か東側にある東京を始めとする関東、東北方面だろう。加屋町住民の防災アンケートにも多く見られたように親戚や親しい友人を頼って静岡を脱出する方法があるが、ではどうやって移動するか？となると、鉄道網は寸断されている可能性が高いから自家用車の利用しか考えられない。しかし高速道路や一般道も路面が壊れて利用できないことも考えられ、またそのような逃避車両による渋滞もあるだろう。そもそも大災害時は復旧支援車両が優先され、一般車は走行が認められないケースも出てくるだろう。となると三島から脱出するのは極めて困難になることが想定される。

② 《自家用車の中での就寝》

最近の災害時に夜間は自家用車で寝泊りをして凌ぐケースが見られる。

プライバシーは確保されるし、雨風にさらされることもないが、限られたスペースしかないから健康管理面での問題がある。

③ 《敷地にテントを設営》

自宅の庭等にテントを設営して生活する方法である。春や秋の陽気の時は良いが、この問題は猛暑の季節や冬の寒さの時が心配だし、雨対策も考えなければならぬだろう。

④ 《加屋町の中に町内独自の臨時の避難所を開設》

加屋町には大きな事業所がないためそれらを一時的にも利用させてもらうことはできない。しかし大きな施設や空き地は僅かながらも存在しない訳ではない。今後の課題としたい。



いずれにせよ、そこには生きるための水や食料を始めとする生活物資が届くまでには、相当の時間がかかることを覚悟しなければならないだろう。従って我々はどうやって生きていかなければならないか、その方法を真剣に考えなくてはならない。

3 可能な限りの有事への準備

(1) 《水、食料、生活用品の確保》

数日分の飲料水やレトルト食品等は常に確保しておいて保存期限がくる前に利用して、再設置しておく習慣をつけましょう。また、生活用水は断水になる前に風呂やバケツ等に可能な限り溜めましょう。

ところで生活用水として清住緑地には防災用の水を取る所があります。一度散歩の時に現地で確認をしておいて下さい。生活用水とは書きましたが、あの湧き水は飲料水にもなるのではなかろうかと私たちは思います。人は2、3日食べなくても死なないそうですが、「飲料水」はそうはいきません。何より不可欠です。生きるための大切な水を確保しましょう。しかし清住緑地へは加屋町から上り坂、下り坂があります。年配者や御婦人では運ぶことができません。そこで地域に貢献して欲しいのは中学生や高校生の若い力です。それ以外にも、様々な活躍の場所があると思います。何としても若い力の結集がキーポイントになると思います。

あと断水時のトイレ対策も忘れないで下さい。

(2) 《防災グッズと防災用品の一括管理》

防災グッズとしては、いったい何が必要なのか、どうしてもそれを落としてしまうケースも多いと思います。新聞社の防災情報サイトやホームセンター等の防災グッズコーナーで一括して購入する方法が（例えば40点セットで税込み9800円程度があります。）また、それらを一括して収納しておく防災棚等を自宅の玄関付近に設置しておくとう便利です。

(3) 《感震ブレーカーの設置》

「感震ブレーカー」は設定してある以上の地震が発生すると自動的に電気を止める器具で、地震による火災の多くは電気によるものであったと報告があります。特に加屋町の被害想定で最も可能性が高く、恐ろしいのは何より火災です。何としても、漏電による火災の発生を防がなければなりません。そこで家を電気火災から守るための「感震ブレーカー」の設置を普及したいと考えます。これを導入すると現在、三島市では補助金を交付しています。

感震機能付分電盤（新設／取替）……………約7～10万円（参考：概算工事費）

既存分電盤に後付け（組込み・外付け）…約4万円

補助対象経費の2／3以内の千円未満を切り捨てた額で、上限25000円です。

但し、新築する住宅に設置する場合は1万円です。

問合せ先 三島市危機管理課 ☎983-2751

※この制度を導入した家庭へ三島市からの補助金とは別に加屋町として防災上重要な観点であると考え独自の補助金制度を現在検討しているところです。

(4) 《自宅の耐震診断の実施》

昭和56年5月31日以前に立てられた旧耐震基準の木造住宅にお住まいの方は、今すぐに御自宅の耐震化をすることをお奨めします。

① 静岡県による無料の耐震診断…令和6年度で終了

② 静岡県による耐震補強工事の補助金制度…令和7年度で終了

問合せ先 三島市住宅政策課 建築指導係まで (☎983-2644)

(5) 《家具の転倒防止対策》

東日本大震災では御承知の通り、津波による甚大な被害が出ましたが、阪神・淡路大震災では被災者の48%が家具の転倒による負傷や圧死であったと言われてい
ます。固定していない家具の転倒は極めて危険です。皆さん、御自宅の点検を進め
て家具等の転倒防止対策を行って下さい。高齢者や障がい者の世帯では、三島市
での取り付け作業をやらせてもらえます。(5品までの取付け費用は市が負担で、
固定器具の代金と6品以上は本人負担。三島市危機管理課 ☎983-2751)

(6) 《常日頃からの自治会活動の交流》

さて、このような防災対策は地域の協同作業や団結が大きな力となって大災害に
立ち向かうことが重要です。自分一人ではできなくても、地域住民の支えがあれば
達成できることは多いと思います。そのためには常日頃からの地域活動や交流が
大前提となります。地域の運動会や防災訓練を始め様々な行事が行われています。
また加屋町では三嶋大祭りが毎年実施され、加屋町では6年に一度は当番町として
盛大にお祭りが実施されています。日々の自治活動に積極的にかかわっていくこと
が有事の時に皆さんの力を結集して困難から立ち上がっていくことができると思
います。つまり平素の活動が基盤になります。

(7) 《補足》

防災に関して色々と説明しましたが、要するに次の2点にまとめられると思います。

- ① さまざまな機会を通して平素より防災に対する考えをまとめておくこと。
- ② 防災対策のための必要な経費を無駄遣いとは思わず、必要な用具等の購入を進めること。

V 加屋町の防災上の危険箇所等

① せんがんどい
「千貫樋」



② 防災会議室の周辺（液状化）



③ 火の神様の「秋葉神社」全景と石積み



④ 狭い路地



⑤ 隣接する清水町の地形



VI 加屋町周辺の防災用の設備等

① ^{きよずみ}「清住緑地公園」の防災用の水



② 「白道こども園」内の耐震性防火水槽



③ 町内の防災関係の倉庫の全景と配備の一部



④ 自宅の防災用品の棚



⑤ 冷蔵庫の耐震対策突っ張り棒



VII 防災に関する加屋町住民の意識・実態調査（アンケート）

町内の各組ごとに令和4年2月にアンケート用紙を配布し、下記の内容についての意識調査を実施した。

アンケート対象戸数…222戸 アンケート回答戸数…144戸

アンケート回答率…65%

1 自然災害のうちで特に不安を感じるのはどれですか？（複数回答可）

- | | |
|-------------------|------------------|
| ① 地震……………137（95%） | ② 台風……………73（51%） |
| ③ 富士山噴火……69（48%） | ④ 竜巻……………34（24%） |
| ⑤ 水害……………15（10%） | ⑥ 津波……………6（4%） |

2 東海・東南海トラフ地震についてあなたはどのように思っていますか？1つ選んで下さい。

- | |
|---------------------------------------|
| ① <u>いずれは発生すると</u> 考えている。……………99（69%） |
| ② <u>必ず近いうちに</u> 発生する。……………41（28%） |
| ③ 考えたことはない。……………3（2%） |
| ④ （自分が生きているうちは）大地震はやってこない。……1（1%） |

3 地震に対して、あなたはどのような備えをしていますか？（複数回答可）

- | |
|------------------------|
| ① 食料や水を備蓄している。…84（58%） |
| ② 家族の連絡法の確認。……63（43%） |
| ③ 防災用品を購入した。……62（43%） |
| ④ 住宅を耐震構造にした。……41（28%） |
| ⑤ 家具を固定した。……………38（26%） |
| ⑥ 避難マニュアルを確認。……31（22%） |

4 加屋町周辺では大地震が起きると、あなたはどんな被害が発生すると思いますか？

(複数回答可)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① 家屋の倒壊……………120 (83%) | ② 火災の発生……………107 (74%) |
| ③ ブロック塀の倒壊……92 (64%) | ④ 道路のひび割れ……………79 (55%) |
| ⑤ 地面の液状化……………22 (15%) | ⑥ 土砂崩れ……………8 (6%) |

5 あなたの家は大地震が発生したら、どのような状況になると思いますか？1つ選んで下さい。

- ① 家の中の荷物が散乱したり、自宅のブロック塀等がゆがむ程度。
(小規模な被害) ……69 (48%)
- ② 家で生活するのが困難なほどの大きな被害が出る。
(大規模な被害) ……66 (46%)
- ③ あまり考えたことはない。 ……5 (3%)
- ④ 家は壊れないし、生活に困ることはないだろう。(被害は殆どない。) ……4 (3%)

6 家の被害が大きく、生活ができなくなったとしたら、あなたはどこで避難生活を送りますか？1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ① 避難所の西小学校……………78 (54%) | ② 親戚や友人宅……………35 (24%) |
| ③ 自家用車の中……………21 (15%) | ④ 庭などに張ったテント…10 (7%) |

7 災害について不安(心配)に思っていることや、もっと知りたいと思っていること、その他の御意見等がありましたら御記入下さい。(文章を簡略化してあります。)

高齢者対策(9)、避難所での生活の不安(6)、感震ブレイカー(2)、防災倉庫の活用(2)、トイレ(2)、防災意識の高揚(講習会等で)、噴火時の防塵マスク、正しい情報(ラジオ等)、家族の連携、持病薬、コロナ対策、町内周辺の弱点は何か、地震直後の火災、防災組織の機能、秋葉神社の倒木の不安、ペットとの生活

8 自治会（西連）主催の「防災訓練」について提案（要望）がありましたら、記入して下さい。（文章を簡略化してあります。）

焦点を絞った具体的な訓練（2）、救助・救出の体験（2）、避難経路のチェック、消火器使用の実演、いかに多くの方に参加してもらえるかの工夫、避難所の体験、わかりやすい防災訓練、要介護者や高齢者の支援・救助への中高生たちの応援

あとがき

本日ここに加屋町の地域からの発信という形で防災研究の発表大会を関係各位をお招きして開催できたことにまずは感謝申し上げたいと思います。

思えば2年前に新米の自治会長となり、さらに三嶋大祭りの6年に一度の当番町を控えながら、あまり前例のない自治会単位での防災研究に何もわからないまま取り組んだのは今更ながら気恥ずかしく思います。ただ防災スタッフが極めて熱心に挑戦してくれたことに頭が下がる思いがします。

私が静岡県公立高校教員になった昭和53年、「東海地震はあなた達が教員をやっている内に必ず発生するだろう。」と研修会で脅されて、結局退職するまで大地震は起きませんでした、ここから先はわかりません。日本列島各地で大きな地震や異常気象による水害が毎年のように発生しています。私たちは、それらに対して、最善の対策を立てて備えることが何より大切だと思います。

この研究が、本日の発表会で終息するのではなく、ここが契機となって加屋町の防災力がアップし、さらに三島市全体に波及してさらなる強化が図られるようになることを願ってやみません。

私たちスタッフに貴重な指導助言を下された小村先生、坂東さん、宮澤さん、静岡県地震防災センターのインストラクターのおじろ小城さんに改めてお礼申し上げたいと思います。

発行元 三島市加屋町自治会・同防災研究会
発行日 令和5年2月5日(日)…初版
責任者 あきつ おん 秋津 温(自治会長兼防災研究会会長)
印刷所 ナポ一印刷〔三島市平成台39番地〕